

# 「都」構想素案、欠陥だらけ

## 山中市議が質疑 法定協開く

### 大 阪

大阪市を廃止・分割する「大阪都」構想の制度設計を話し合う第18回大都市制度（特別区設置）協議会（法定協）が11日、大阪府庁で開かれ、日本共産党の山中智子市議が質疑



開かれた第18回法定協議会11日、大阪府庁

しました。

冒頭、山中議員は、各党間の合意が十分でないなか、法定協会長が職権で協議会を開催したことについて、「協議会開催が何事にも優先されるかのようになり方はいかがなものか」とのべ、民主主義のルールを無視して「何がなんでも住民投票というのをもってのほかだ」と批判しました。

山中議員は、職員配置や中核市並みの庁舎建設、区議定数などについてただし、「ことは『都』構想素案の実効性にかかわる問題だ」と指摘。「素案は府と『特別区』の事務分担や財政調整、区の数と区割り、財産の取り扱い、庁舎問題、『特別区』設置コスト等々、問題だらけ、欠陥だらけ

けで、これ以上議論する意味がない」とのべ、「議論を続けるのであれば素案を撤回し、出直すべきだ」と主張。府市副首都推進局は「素案をもとに協

議し、結果をもとに協定書案をまとめることになる」と素案に固執する姿勢を示しました。

山中議員は「素案の是正措置をしないのであれば、議論を積み重ね結論は出ている」とのべ、「不毛な制度いじりの議論は打ち止めすべきだ」と主張しました。